

評議員会議事録

日 時：2004年1月24日(土)11:00～15:30

場 所：国立天文台大会議室（南研1階）

出席者：太田，岡村，加藤，小山，須藤，千田，高橋，福井，安東，家，梅村，大橋，小杉，佐藤，観山，山本 以上 16名

欠席者：海部，高原，吉井，池内 以上4名

有効委任状提出者：井上，柴田，舞原，牧島，谷口 以上5名

他に理事会から，松田，若松，杉山，郷田，関井，松原，山岡，および東條事務長が参加した。

議事に先立ち，議長および署名人を選出した。

議 長：福井康雄

署名人：高橋弘充，大橋隆哉

報 告

1. 前回議事録の確認（資料1）

杉山理事より前回（2003年9月26日）の評議員会議事録が報告され，承認された。

2. 「回転サーチライトなど禁止の法制化についての要望書」（資料2）および西尾環境管理局長会見と記者会見報告

小池百合子環境大臣宛標記要望書を，2003年12月11日に松田理事長，祖父江副理事長，若松副理事長，杉山庶務理事が環境省に持参し，西尾哲茂環境管理局長に手渡した経緯と，その際の懇談およびその後の環境省記者クラブにおける記者会見について，杉山理事より報告があった。

3. 2003年度早川幸男基金援助者選考結果の報告（資料3）

選考委員会委員梅村評議員より，資料に基づき，2003年度の選考結果および執行結果について報告があった。採用者間に，支給率が満額支給と半額支給の2種類があるが，どのように決められているのか質問があり，選考の順位に基づいて決定しているとの回答があった。

4. 創立100周年記念出版事業第2回編集委員会報告

岡村編集委員より，標記編集委員会の活動が次のように報告された。刊行の可能性を打診していた出版社7社のうち4社から企画書が出されたことを受け，2003年11月29日，第2回の編集委員会が開かれ，企画書の内容を吟味した結果，4社の中から日本評論社を出版社として選定した。また，全15巻の内容について検討した。各巻の内容の1次案については，まもなくweb上に公開し，広く会員にアンケートを求める予定である。

5. その他

(1)旅費補助について

高橋評議員から，若手の会会員（約半数が正会員（学生））に対して行った，2003年度秋季年会旅費に関するアンケート（補足資料）について説明があった。この中で，学生が年会に参加するにあたり支出する金額のうち，所属機関から科研費などで補助される割合は，0%と80～100%の二極化の様相を呈していることが報告された。補足として，今回のアンケートから把握できる範囲で，当該年会に関しては，個人負担なしとするためには，総額150万円程の補助が必要であり，80万円程度が不足していた実態について，千田評議員より説明があった。続いて，関井理事より，学術交流費は現在のと

ころ年間140万円程度の予算で推移していて、充足率が 50% 程度であることの説明があった。その後、学生で給料を受けている者の取り扱い等に関して、意見交換が行われた。

議 題

1. 天体発見賞，天体発見功労賞，天文功労賞，研究奨励賞，林忠四郎賞，欧文報告論文賞の2003年度の各受賞者の決定（資料4）

山岡天体発見賞選考委員長より、天体発見賞，天体発見功労賞，および天文功労賞候補の選考結果が報告された。天体発見賞6件3氏，天体発見功労賞2件2氏，天文功労賞 3件4氏（長期的な業績1件1氏，短期的な業績2件3氏）であった。意見交換の後，それぞれ下記のような受賞者が満場一致で決定された。なお，推薦文については，一部加筆することとなった。

天体発見賞 板垣公一（4件），高尾 明（1件），西村栄男（1件）の各氏

天体発見功労賞 串田麗樹（1件），山本 稔（1件）の各氏

天文功労賞 長期的な業績として豆田勝彦氏，短期的な業績として高橋 進，杉江淳，木下正雄の各氏（高橋，杉江両氏は共同受賞）

続いて，研究奨励賞選考委員である須藤評議員より，研究奨励賞候補者の選考結果が報告された。2件の推薦であった。意見交換の後，満場一致で下記のように決定された。

なお，推薦文の一部加筆を行い，所属・年齢などを加えることとなった。

研究奨励賞 上田佳宏，小松英一郎の各氏

最後に，林 忠四郎賞選考委員長である佐藤評議員より，林 忠四郎賞および欧文報告論文賞の候補者の選考結果が報告された。林 忠四郎賞1件2氏，欧文報告論文賞は該当なしであった。意見交換を行い満場一致で下記のように決定された。

林 忠四郎賞 蜂巣 泉，加藤万里子の各氏（共同受賞）

欧文報告論文賞 該当なし

なお，林 忠四郎賞選考委員会より林 忠四郎賞については，来年度も，今年度の被推薦者を加えて選考を進めること，今後の公募でも，推薦は2年間有効としたいという意向が報告され，評議員会としても了承した。欧文報告論文賞については，推薦件数が少ない現状に鑑みて，選考委員会から過去5年間における引用件数の多い上位 10編の論文の著者について，自薦，また適当な会員に推薦していただくよう勧める，という選考委員会からの意向が示され，意見交換が行われた結果，評議員会としても 了承した。

2. 2003年度事業報告書案（資料5）

2003年度事業報告案を杉山理事が説明し，質疑応答の後，同報告書案は承認された。

質疑応答では，佐藤評議員より，印刷部数に応じて科研費の刊行補助金が決まるという現行の方式の下で，電子版の普及によって，国内の物理系の欧文雑誌が発行部数減から危機的状況に陥っており，統合を考えているということが紹介され，欧文研究報告の対応について質問があった。このような印刷部数にのみ応じた補助金は，電子化が進んでいる実情に合わないことから，今後学術振興会に対して，電子媒体をも考慮して補助金を決定するように働きかけていくことが確認された。続いて，男女共同参画学協会連絡会に関連して，佐藤評議員より，物理学会では，常勤でない研究者でも科研費が出せるようにするためのアクションを行っている旨，報告があった。それに対して，加藤評議員から，本務校がない場合の非常勤研究者の科研費申請が問題になるなどの運用上の問題点はあるものの，改善を進めるべきであるとの指摘があった。同評議員からは続い

て、男女共同参画学協会連絡会の要請に基づいて行ったアンケートについての補足説明があった。

3. 2003年度決算報告書案（資料6）

2003年度決算報告書案を関井理事が報告し、質疑応答の後、若干の字句修正の後、同報告書案は承認された。

4. 監査報告（資料7）

2004年1月7日に実施された監査の結果、上記事業報告案および決算報告書案が正当であると認められたことを監事の代理と才て杉山理事が報告し、評議員会としても了承した。

5. 会費未納者の除名について（資料8）

2002年度より会費を滞納している、正会員13名、準会員18名が杉山理事より報告され、除名が承認された。

6. 委員会および小委員会の名称について

理事会から評議員会への要請として、創立100周年記念出版事業編集委員会は、内規に照らしたところ、小委員会と名称を変更する必要があるので、了解をお願いする旨、杉山理事より説明があった。意見交換を行った後、当該委員会は名称を変更せず、内規に小委員会であることを明記すればよい、との結論に至った。内規の変更については、理事会で原案をつくり、次回評議員会に提案することとなった。

7. その他

(1) 次回以降の日程

次回の評議員会は、春季年会中の3月23日（火）昼休み、次々回は7月10日（土）、国立天文台で行うこととなった。

2004年2月9日

議長 福井康雄

署名人 高橋弘充

署名人 大橋隆哉